

SHIRAKOBATO

# しらこぼと



2002.2

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 214

日本野鳥の会 埼玉県支部

# 識別は楽しい♡ ジュリン3種の冬羽

海老原美夫（さいたま市）

冬の楽しみのひとつは、地味なのに、姿がちらちらするだけで、とたんに枯野が豊かに見えてくるオオジュリンやコジュリンたち。

昨年は戸田市彩湖周辺でシベリアジュリンがいると評判になって多くの人が集まったけれども、この3種の冬羽は、結構難しい。

## ●識別一覧表

私自身の多少の観察経験も加えて1993年に第1版、2001年に若干訂正した第2版を作成、ホームページ(<http://23.tok2.com/ebi/>)でも公開しているのが、右ページの一覧表。万一間違っていれば明るく笑って誤魔化して、次々と訂正していきたいと考えている。

## ●オオジュリンかコジュリンか

私は先ず足指（趾）の色を見る。黒かったらオオジュリン、黒くなかったらコジュリンと見当をつける。

次に見るのは嘴の形と色。「嘴峰(しほう)」というのは、嘴の上側ラインのこと。このラインがプクンと丸っぽく見えたらオオジュリン。丸っぽく見えなかったら、コジュリン。

この2点でどちらかに見当がついたら、あとは腰の色とか頭央線の有無とかを見ていて、確認すればよい。

## ●餌も、住む場所も違う

オオジュリンは葦の皮をバリバリ剥いて、中にひそむカイガラムシを食べる。その為、嘴峰が丸く縦に分厚い頑丈な嘴を持っている。

コジュリンは、草の種などを多くついでるのでそれほど頑丈な嘴は必要なく、ついでみやすい形の嘴を持っている。

だから、オオジュリンは葦原に住んでいるが、コジュリンは、それより丈の低い草原と葦が入り混じるような場所にいる。

もちろん鳥のことだからいろいろ移動もするけれども、そういう所にいることが多いということ。

風の強い日に、「地上に降りて採餌しているからシベリアジュリン」と説明している人に出会ったことがある。が、オオジュリンだって地上に降りることもある。あまり固定的に考えすぎるのは、ちょっとあぶない。

## ●顔の模様などは

冬羽といっても、冬のはじめには夏羽が残っていたり、春近くには夏羽が出始めていたり、段階は様々で、それに惑わされると識別を誤ることがある。

「胸に菱形の模様が見えるから、シベリアジュリンだ」という説明も聞いたけれども、それは識別ポイントにはならない。ひとつの図鑑のイラストや写真をあまり細かく見過ぎると、そんな落とし穴に陥ることもあるかもしれない。

## ●シベリアジュリンは

薄い翼帯2本が、先ず最初の手掛かり。

最も特徴的なのが、嘴。嘴峰は直線的で、上嘴は黒く下嘴は淡色。コントラストが強い。

嘴峰が直線的ということは、草の種などをついでむ傾向がコジュリンより更に強いということで、住む場所も、丈の低い草原に依存することが多い。

と言っても、繰り返しになるけれども、例えば中国の北戴河で、茶色の濃いシベリアジュリンが、葦原にいるのを見たこともある。単純には言い切れない。

尾が短く見えることは大切な手掛かりだが、小雨覆の色は野外では見分けにくいので、重大な識別ポイントにはできないだろう。

茶色のシベリアジュリンもいるし、白っぽいオオジュリンもいる。要するにひとつの特徴にとらわれることなく、手掛かりの軽重も考えながら、総合的に見るのが最も必要ではないかと思う。

だから、識別って楽しいよ♡

### ジュリン3種の冬羽の識別

	オオジュリン	コジュリン	シベリアジュリン
全長	16cm	14.5cm	14cm
色調	茶褐色	茶褐色	淡い茶褐色
嘴	嘴峰湾曲 上嘴と下嘴のコントラストは、シベリアジュリンより弱い	嘴峰は他2種の間 雄は上下のコントラストが比較的強くて、雌は上下共淡色	嘴峰は直線的 上嘴は黒く下嘴は淡色 コントラストが強い
頭央線	ない	ある	ない
小雨覆	赤褐色	灰色 バフ色を帯びている個体もいる	雄成鳥=暗青灰色 雄幼鳥=バフ色がかった灰色 雌成鳥=灰褐色 雌幼鳥=暗灰褐色 野外で確実に見ることは難しい
翼帯	見えない	見えない	顕著な2本の淡色翼帯
胸脇	薄い縦すじ	成鳥=不明瞭な淡黄色の縦斑 幼鳥=黒褐色の縦斑	成鳥=縦斑は細くて目立たない幼鳥=顕著な黒い縦斑
腰	灰色みが強い	赤褐色	淡色
尾の長さ	特に短くは見えない	特に短くは見えない	短く見える
足	黒褐色 趾がふ趾より特に黒みが強い	ピンク色	他2種の間 趾がふ趾より特に黒くはない
生息場所	葦原	葦原や草原	草原

参考文献 高野伸二1980 野鳥識別ハンドブック (財)日本野鳥の会  
 茂田重光1992 形態と識別11オオジュリン BIRDER(3):46-51  
 茂田重光1992 形態と識別12シベリアジュリン BIRDER(4):46-50  
 茂田重光1992 形態と識別13コジュリン BIRDER(6):46-51

写真左下オオジュリン、右上コジュリン、右下シベリアジュリン

いずれもさいたま市と戸田市の彩湖周辺で海老原撮影。シベリアジュリンは1993年3月・県内唯一の確認記録。



## 初めてのリーダー経験

伊藤隆広（久喜市）

10月28日、初めてリーダーとして渡良瀬遊水地の探鳥会に参加しました。支部の探鳥会に参加し始めてから約4年半、ずっと「楽しませていただく」側でしたが、今度は、「楽しさに気付いてもらい、分かち合う」ことにも気を使う事になりました。

青い腕章を巻いた時、「難しいことを聞かれたらどうすればよいか」という不安がつのりましたが、9月のリーダー研修会で「わからないことはわからない、と言えばよい」と言われた事を思い出し、結局、素直に楽しむ気持ちで行く事にしました。

前日の下見に参加しました。晴天の下、まずはカモを眺めました。エクリプスで、見分けるのに苦労しました。猛禽類にはドキリとしましたが、白い腹と斑点でミサゴ、前から見るとV字型に見えるチュウビだと分かり、一安心。草原には、おなじみの冬鳥たちが来ていました。渡りでやせてしまった(?)シメ、早くもお腹を真っ赤に染め上げたベニマシコ、里の冬鳥の代表格のジョウビタキも登場しました。この状態なら参加者も楽しめるだろう、と思っていました。

当日、「久喜から来ました、伊藤です。」という恒例のあいさつも無事に終え、出発直後にミサゴが見事なダイビングを見せてくれたのですが、その後雨が降り出してしまいました。ずぶぬれになりながらも、カンムリカイツブリは、みな喜んで見ていたようです。

しかし、回復の見込みのない天気、メインリーダーが「ここで引き返します」と声をかけました。こういう想定外の時に判断をすることも、リーダーの大切な役割だとつくづく感じました。

鳥合わせを終え、とりあえずトラブルなく、リーダーとして初の探鳥会は終わりました。名簿を見ると、会員でない参加者も多いようでした。あいにくの天気でしたが、1人でも鳥を見て楽しみ、そういう会話ができる仲間が増えて欲しい、と思います。これからもそのお手伝いできれば何よりです。

## 大自然まるごとウォッチング白馬探鳥会

藤澤洋子（志木市）

朝からの雨も、長野駅に着く頃には上がり、一安心。宿専用車で最初の探鳥会唐花見湿原へ。車中、ツグミの群れがツルウメモドキの実をついばむ姿を観察し、まずまずのスタート。ノスリ、カラ類、ベニマシコ♀を観察できてホッとする。持参の昼食時にはアトリの群れの中に2羽のマヒワも来てくれた。

次の居谷里湿原へ。春のここのウグイスは“ホーホケキョホイ”と必ず“ホイ”がついたことを思い出す。木崎湖、青木湖、姫川ダムでは、カンムリカイツブリ、オオバン、オシドリたちを観察して宿に着く。倉下の湯で疲れを癒し、温かいシチューに舌鼓を打ちながらビデオを拝見し、とても楽しい夕食会。

翌日早朝、まだ暗いうちに出発。初めてのモルゲンロート鑑賞会は、晴天無風に恵まれ、6時20分の日の出頃より、雪のアルプスが少しずつ色づいてゆく。稜線が薄い紫から次第に薄いピンク色に染まってゆき、山肌の影はどこか薄いブルーに見え、本当に神秘的に満ちた世界、感動の瞬間だった。

霜の降りた枯れ葉の絨毯を歩いて浅間山林道を下り、アカゲラ、アオゲラ、ホオジロ、カケスを観察しながら寄宿。温かいパンプキンスープの昼食で体を暖める。

落倉林道では、マヒワの群れがハンノキの皮を食し、コゲラ、エナガも来た。姫川源流では、田のカシラダカの群、シジュウカラがツルマサキの実を、ベニマシコ♀がヨモギの種を食べていた。鳥合わせの折には、この地にはいないと思っていたダイサギも現れて、春とは違った秋の白馬探鳥会は、大自然を満喫した実り多き、感動の探鳥会でした。





**富士見市水子** ◇10月13日、柳瀬川左岸の耕作地でノビタキ1羽。11月11日、柳瀬川左岸の耕作地上空でチョウゲンボウ1羽とハヤブサ1羽が交戦していた(中村治)。◇11月23日、柳瀬川左岸のアシ原でクイナ1羽(中村治他1名)。

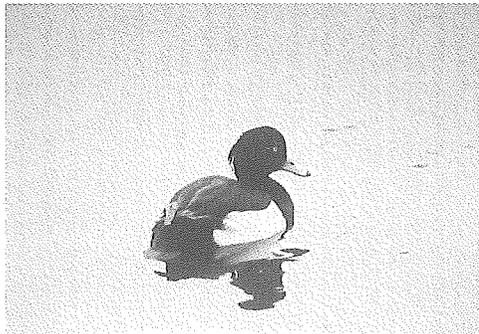
**志木市柳瀬川** ◇高橋～栄橋間上空でオオタカ1羽(中村治)。

**さいたま市下山口新田** ◇11月2日午後2時頃、芝川第一調整池でセイタカシギ1羽、ハマシギ1羽(鈴木紀雄)。

**さいたま市大谷** ◇11月9日、環境広場で雨の中、クサシギ4羽以上、イカルチドリ6羽。なぜか今年はタシギがまだいない。11月26日午後3時頃、タシギ7羽、イカルチドリ6羽、ツグミ約200羽、ハクセキレイなど。11月29日午後3時頃、タゲリ5羽、タシギ16羽、クサシギ3羽以上、イカルチドリ5羽、ツグミ約200羽、タヒバリなど。12月12日午後3時頃、タゲリ6羽、クサシギ3羽、タシギ約10羽、イカルチドリ6羽、ツグミ約100羽、キセキレイ1羽など(鈴木紀雄)。

**さいたま市日進町1丁目** ◇12月3日ピンズイ2羽初認(森本國夫)。

**さいたま市秋ヶ瀬公園** ◇12月21日午後3時頃、ピクニックの森でツグミ約10羽、アカハラ2羽、トラツグミ1羽が林床で採餌。トラツグミの大きさがよくわかった(鈴木紀雄)。◇12月29日午後2時～5時、ピクニックの森でシロハラ、アカハラ、アカゲラ、カワセミ、カシラダカ、モズ、アオジ



キンクロハジロ(山内 元)

(陶山和良、星野政一)。

**さいたま市指扇** ◇12月31日午後2時、自宅のある団地上空でノスリ1羽が5羽のハシブトガラスにモビングされ、強風とカラスとの戦いに見事な飛翔技術を駆使しながら、次第に西方へ消える(松井昭吾)。

**戸田市道満彩湖** ◇11月13日、ヨシガモ2羽、ミコアイサ♂1羽、セグロカモメ5羽。11月17日、カンムリカイツブリ23羽、オオバン25羽、ユリカモメ7羽、セグロカモメ3羽、カモメ1羽、ウミネコ2羽、アカハラ2羽(倉林宗太郎)。12月21日午後2時、北縁でヨシガモ♂2羽、ウミネコ、セグロカモメ、カンムリカイツブリなど(鈴木紀雄)。

**川口市差間** ◇11月16日午後3時頃、芝川第一調整池東縁の堤上でノスリ1羽が休んでいた。やがて、アシ原内へ低く飛んでいった(鈴木紀雄)。

**蓮田市黒浜沼周辺** ◇11月7日午後1時30分頃、ベニマシコ♀1羽、ツグミ約10羽、シロハラ1羽。11月15日午後2時頃、ノスリがカラス2羽に激しく追われていた。アシ原内の木の枝にツグミ20羽程がとまり、上空にも飛び交っていた。11月19日、南側の田んぼでタゲリ1羽。12月3日午後2時過ぎ、黒浜沼南の田んぼでタゲリ4羽。療養所内でアカゲラ♀2羽、ヒガラ2羽。ルリビタキは姿は見えなかったが声はきこえた。12月4日午後1時過ぎ、療養所周辺でアカゲラ♀1羽、カシラダカ約20羽。シジュウカラ約20羽の群れとともにヒガラ3羽、キクイタダキ1羽。松林の地面でピンズイ約10羽。12月10日午前9時頃、療養所内でヒガラ3羽以上、ピンズイ約10羽、ヤマガラ2羽。ハイタカ♀1羽、枯れた杉の枝にとまり、あたりを見回していたが、カラスが仕掛けようとした瞬間、さっと林の中へ降下していった(鈴木紀雄)。

**岩槻市文化公園** ◇11月10日午後1時頃、雨の中、一本のムクノキに実を食べにくる鳥を観察した。ヒヨドリが一番多く、次にツグミ。さらにアカハラ、シロハラ、シメもやって来て楽しい。11月15日午後1時頃、灌木の中にヒョイトとまる鳥影、よく見たらアリスイだった。越冬するか? 2羽い

る可能性あり。11月16日午後1時頃、ノスリがカラスに追われ逃げ回っていた(鈴木紀雄)。

**岩槻市慈恩寺** ◇11月19日、元荒川にかかる慈恩寺橋の街灯にセグロカモメ成長1羽。毎年同一個体がやって来ているのではなからうか(鈴木紀雄)。

**岩槻市大谷** ◇11月29日午後2時頃、アシ原中の灌木でオオタカ1羽、あたりを見回していた(鈴木紀雄)。

**羽生市水郷公園** ◇11月12日、新しい池でコガモ80羽以上。人見知り激しくて、少し近づくと、どっと飛び立ってしまう(四分一保雄)。

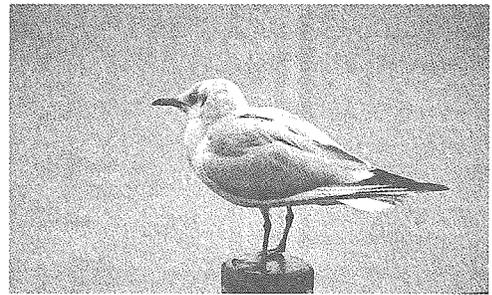
**菑蒲町小林** ◇11月18日午後3時頃、ミヤマガラス3羽。11月21日午後2時30分頃ニューナイスズメ50羽以上が電線で休んでは耕作地に降りて採餌していた(鈴木紀雄)。

**松伏町大川戸** ◇11月20日午後2時頃、公園予定地でハイイロチュウヒ♀1羽、新しく作られた池周囲の草地にカラスに追われながら着地。腰の白鮮明。タゲリ8羽がフワフワ飛翔。池ではオナガガモ、コガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、ハシビロガモ、オオバンなど。周囲の盛土にタヒバリ多数(鈴木紀雄)。

**鴻巣市郷地周辺** ◇11月18日午後2時頃、コクマルガラス20羽の群れ。全て暗色型。コチョウゲンボウ♀1羽(鈴木紀雄)。

**鴻巣市笠原** ◇11月21日午後1時30分頃、県道上の電線でミヤマガラス約50羽(鈴木紀雄)。◇11月23日午前10時、ミヤマガラス約350羽、コクマルガラス(暗色型)約10羽(後藤康夫・喜久子)。

**嵐山町菅谷館跡～都幾川** ◇11月17日午前9時から1時30分、ベニマシコ♀1羽、都幾川の河原の雑草地で採餌。オオタカ1羽、



ユリカモメ(山内 元)

樹上にとまっていたツグミがオオタカ上空通過とともに一斉に飛び立った。ツグミ40～50羽、アカゲラ、アオゲラ、カケス、シメ他計29種(後藤康夫、北村隆)。

**深谷市利根川** ◇11月23日午後3時頃、新上武大橋上流の河川敷でケアシノスリ1羽。頭部、初列風切り基部、尾羽の白が美しい。尾羽先端の暗色バンドはモヤッとしていて、はっきり2本には見えなかった(鈴木紀雄)。

**吉見町蚊斗谷** ◇11月23日午後12時30分頃、タゲリ44羽、ムナグロ冬羽3羽、タシギ1羽(後藤康夫・喜久子)。

**川本町荒川** ◇11月25日午前6時45分～7時45分、コハクチョウ約65羽、マガモ、コガモ、カルガモ、オナガガモ、ホシハジロ、スズガモ、ホオジロガモ♂2羽♀2羽他計31種(後藤康夫)。

**川越市入間川** ◇12月15日、水上公園近くでカワウ約500羽。午前9時40分頃、所沢方向に飛んでいった(佐久間博文)。

**所沢市山口** ◇12月27日お昼頃、自宅隣接の遊水池にクサシギ2羽が飛来した。当地では初めて(小林ますみ)。

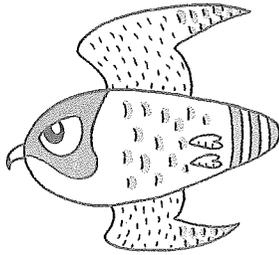
**越生町大高取山(376m)** ◇1月3日午後1時、山の南側の斜面すれすれにノスリ1羽悠々と旋回。何をさがしていたのだろうか?(松井昭吾)

表紙の写真

ガンカモ目ガンカモ科マガン属ハクガン

撮影：佐藤進(さいたま市) シベリア東端・アラスカ・カナダの北極圏で集団繁殖し、北アメリカ大陸内で南の方に移動して越冬する。数千羽の大群を見ることが出来る。かつては日本にも多数飛来したようだが、現在は、まれに1～2羽がマガンやヒシクイの群れに混じって飛来するだけ。基亜種ハクガン白色型のほかに基亜種ハクガンの青色型、亜種オオハクガンもいる。それぞれ繁殖地・越冬地が違う。(解説：編集部)

# 行事あんない



(何森 要)

特別な場合を除いて予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費は一般100円。会員と中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。悪天候の時は中止、小雨決行です。

自然保護のため、できるだけ電車バスなどをご利用のうえ、指定の集合場所までおいでください。

## 北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：2月3日(日)

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。  
交通：JR高崎線北本駅西口アイメガネ前から、北里メディカルセンター病院行きバス8：40発にて「自然観察公園前」下車。

担当：岡安、大坂、内藤、島田、立岩、長野(安)、長野(京)、今井、山野

見どころ：池ではカモの求愛行動。林縁を飛び交う混群のにぎやかな会話。一瞬の凍りついたような静けさ。羽音を立てて飛び交うカモたち、低空をオオタカが通り過ぎる。そんな光景の中に身をおくのもバードウォッチングの醍醐味。

## さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

〈差間コース〉

期日：2月3日(日)

集合：午後2時、浦和くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR浦和駅西口バス1番乗り場から、東川口駅北口行き13：30発にて、「念仏橋」下車。

後援：浦和くらしの博物館民家園

担当：手塚、伊藤(芳)、工藤、倉林、吉岡(洋)、若林 新井(勇)、土沢、石田

見どころ：アシ原にひそむ鳥たちを、午後からじっくりと観察しましょう。夜行性の鳥たちに久しぶりにあえたら最高!!

## 熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：2月10日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。  
交通：秩父鉄道熊谷9：11発、または寄居8：49発に乗車。

担当：和田、森本、中里、石井(博)、倉崎、松本、高橋、後藤、藤田、栗原

見どころ：昨年、野鳥の森でアトリ、ミヤマホオジロが見られました。カシラダカが早くから来ているので、今年も期待できそうです。風が吹くと本当に寒いので防寒対策は怠りなく。

## さいたま市・大宮市民の森探鳥会

期日：2月10日(日)

集合：午前9時、JR宇都宮線土呂駅東口。または午前9時20分、市民の森入口前(土呂駅東口から徒歩約5分)。

担当：工藤、藤原、櫻庭、森(力)、松永、日根、有馬、赤坂、松村

見どころ：“身近な場所で身近な鳥たちを観察する”が、毎回のテーマです。それでも鳥合わせをすると種類が多いんですよ。早春の時、ヒバリの初さえずりを聞きにお出かけください。

## 松伏町・緑の丘公園探鳥会

期日：2月11日(月・祝)

集合：午前10時15分、松伏町大川戸緑の公園予定地。

交通：東武伊勢崎線せんげん台駅東口下車。  
茨城急行バス大正大学入口行き9：45  
発にて、「新川西」下車。公園予定地  
のため駐車場はありません。

担当：橋口、田邊、吉岡（明）、榎本（建）  
見どころ：大川戸の田んぼの地に30年計画で、  
県営緑の丘公園（仮称）の造成が、昨  
年2月から始まりました。掘られた池  
にカモが来てくれました。人工物でも  
条件がそろえば鳥たちは応えてくれま  
す。ここの環境がどのように変化し、  
野鳥の生息環境になっていくか、定期  
的に観察したいと思っています。

### 戸田市・彩湖探鳥会

期日：2月14日（木）  
集合：午前9時20分、彩湖道満グリーンパー  
ク中央駐車場。  
交通：JR埼京線武蔵浦和駅2番バス乗り場  
から、下笹目行き8：37発にて「彩湖  
道満グリーンパーク入口」下車。交差  
点まで戻り左折して土手を越える。  
担当：倉林、百瀬、松村、有馬、森（秀）、  
赤坂  
見どころ：今年もアカハラは来ているかな。  
水辺ではカワセミやカモたちが待っ  
ています。空ではタカも舞っています。

### 「しらこぼと」袋つめの会

とき：2月16日（土）午後1時～2時ころ  
会場：支部事務局108号室

### さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：2月17日（日）  
集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東  
口、集合後バスで現地へ。または午前  
9時、さいたま市立浦和博物館前。  
後援：さいたま市立浦和博物館  
担当：楠見、福井、手塚、倉林、渡辺（周）、  
若林、兼元、森（力）、小菅、新部  
見どころ：今回は200回記念「クリーンアッ  
プ探鳥会」としてゴミ拾いをした。自  
然への優しい心を持って三室へどうぞ。  
鳥も、仲間も待っています。

### 滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：2月17日（日）  
集合：午前9時40分、森林公園南入口前。  
交通：東武東上線森林公園駅下車、森林公園  
南口行き9：17発バスにて終点下車。  
費用：入園料400円（子供80円）  
担当：内藤、佐久間、岡安、藤掛、青山、喜  
多、後藤  
見どころ：梅の香り漂う中、オシドリを見に  
行く長沼までのコースです。時間はた  
っぷり、ゆっくりと観察します。アフ  
ターには一足伸ばして梅林でお弁当な  
どを広げる楽しみもありますよ。

### 本庄市・坂東大橋探鳥会

期日：2月17日（日）  
集合：午前8時50分、JR高崎線本庄駅北口。  
集合後、十王バス新伊勢崎行きにて「坂  
東大橋南詰」下車。または午前9時30  
分、現地集合可。駐車は土手側にのみ  
お願いします。  
担当：北川、倉崎、堀（敏）、堀（久）、小池  
（一）、小池（順）、新井（巖）  
見どころ：何種類のカモに出会えるでしょ  
うか？ 上空のワシ・タカにも期待しま  
しょう。赤城おろしは大変冷たいので  
防寒はじゅうぶんに。

### 東松山市・物見山探鳥会

期日：2月23日（土）  
集合：午前9時30分、物見山駐車場（高坂方  
面から峠を越えた右側）。  
交通：東武東上線高坂駅西口から、東武バス  
鳩山ニュータウン行き8：58、9：08  
発にて「大東文化大学前」下車、徒歩  
約5分（バス進行方向へ進みます）。  
担当：島田、岡安、藤掛、志村、立岩、後藤  
見どころ：市民の森を歩き、カラ類の混群や  
シロハラ、ルリビタキを、山間から開  
けていく農地では、ジョウビタキ、カ  
シラダカなどを、路端に咲く小さな春  
も見つけましょう。

### 上尾市・丸山公園探鳥会

期日：2月23日（土）

集合：午前7時30分、丸山公園北口駐車場。

交通：JR高崎線上尾駅西口5番バス乗り場から、西上尾車庫行き（畔吉経由）7：07発にて「前原」下車、徒歩約8分。

解散：午前11時ころ

担当：大坂、阿久沢、立岩、長野（安）、永野（京）、山野

見どころ：冬の早朝には楽しい出会いがあります。池でカワセミをみて、荒川の土手に向かうとアトリの群れ。シメもいる。土手からは真白な富士や秩父の山々を眺めつつ、ペニマシコなどを探します。

### 東京都・上野公園不忍池探鳥会

#### 〈ぬり絵探鳥会〉

期日：2月23日（土）

集合：午前9時、上野公園西郷銅像前。

担当：山部、橋口、田邊

見どころ：超ビギナーや親子づれの方々にピッタリ。黒や白、茶色などのカモ達、足もとまで近寄って来ます。それを見て、担当者が用意した「ぬり絵」カードに色鉛筆で色をつけます。色鉛筆は、12色程度のものを各自ご用意ください。『しらこぼと』2000年12月号の特集を再読していただくと、いっそう楽しく参加できます。

解散は午前11時ごろです。

### 羽生市・羽生水郷公園探鳥会

期日：2月23日（土）

集合：午前8時45分、東武伊勢崎線羽生駅改札口、集合後バスで現地へ。または午前9時30分水郷公園駐車場。

交通：東武伊勢崎線春日部7：55→久喜8：09→羽生8：30着。またはJR宇都宮線大宮7：39→久喜7：59にて、東武伊勢崎線乗り換え。

担当：中里、和田、田村、宮下、四分一

見どころ：ビギナーの方も楽しめる新探鳥地

です。身近なところにどんな冬の鳥たちがいるのでしょうか、みんなで探し、出会いを楽しみましょう。アフターには県立水族館で、埼玉の川魚などを見ることもできます。

### 富士見市・柳瀬川探鳥会

期日：2月24日（日）

集合：午前9時、東武東上線柳瀬川駅東口前。

担当：高草木、佐久間、石井（幸）、志村、神場、中村（治）、中村（祐）、荒木、藤沢、山田（義）

見どころ：寒さも峠を越して、春を目前に冬鳥たちの旅立ちの準備が始まり、中州のタシギ、カモは伴侶を見つけています。今年も魅力がいっぱいのタゲリを皆で見送りましょう。

### 岩槻市・岩槻文化公園探鳥会

期日：2月24日（日）

集合：午前8時40分、東武野田線岩槻駅前。

または午前9時20分、文化公園駐車場（国道16号側）。

交通：東武野田線大宮8：19発柏行き、または春日部8：24発大宮行きにて岩槻下車。集合後バスで現地へ。

担当：中村（榮）、吉安、橋口、玉井、田中、長嶋、榎本（建）

見どころ：前回はアカハラ、シロハラ、アカゲラなどが見られました。今年はどんな小鳥が皆さんを待っているでしょうか。またどんな春が見られるでしょうか。みんなで探しましょう。

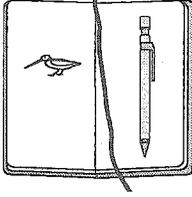
### 深谷市・仙元山公園探鳥会

期日：2月24日（日）

集合：午前9時、JR高崎線深谷駅南口ロータリー。

交通：小池（一）、倉崎、堀（敏）、堀（久）、藤田、新井（巖）、大澤

担当：小さな里山で越冬するビンズイ、シロハラ、ルリビタキ、ああそうそう、久しぶりにゴジュウカラも来ています。唐沢川のカワセミも元気です。



# 行事報告

10月8日(月、休) さいたま市秋ヶ瀬大久保農耕地

参加：38人 天気：曇

カワウ ヨシゴイ ゴイサギ ダイサギ コサギ  
アオサギ カルガモ オオタカ チョウゲンボウ  
ムナグロ タシギ キジバト コゲラ ヒバリ  
ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ノビタ  
キ セッカ シジュウカラ カワラヒワ スズメ  
ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (26  
種) シギ・チドリ調査のときはいなかったタシギ  
が観察された。なお、タカを訓練している人がい  
たが、ハリスホークという輸入種だった。訓練と  
いうことと伝書鳩を獲らせていたので法律違反に  
はあたらなかった。(福井恒人)

10月28日(日) 川越市 西川越

参加：28人 天気：小雨

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ カルガ  
モ コジュケイ イカルチドリ ユリカモメ キ  
ジバト カワセミ キセキレイ ハクセキレイ  
セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ シジ  
ュウカラ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ  
スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハ  
シブトガラス (26種) 探鳥開始ころから降ってき  
た。どうしようかと思ったが、参加者が多いので、  
無理をしないようにして決行。まずはモズ、セキ  
レイ類を見てから、川に出て、イカルチドリ、カ  
イツブリ等を見た。帰りに椋の木でシメが実を食  
べているのを見て終了。(佐久間博文)

11月11日(日) 熊谷市 大麻生

参加：49人 天気：晴

カイツブリ カワウ カルガモ オオタカ ノス  
リ セグロカモメ キジバト アカゲラ コゲラ  
ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキ  
レイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ  
ウグイス セッカ シジュウカラ メジロ ホオ  
ジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムク  
ドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス

(30種) 久々に野鳥の森へ向かった。下見で確認  
されたような大群ではなかったが、ツグミ、シメ  
にも会えた。ジョウビタキ、アオジ等の冬鳥も見  
られ渡りは順調なようだ。総合学習の一環として  
地元小学校の4年生4名も参加。ほかに小学生2  
名及び2年ぶりに参加の中学生のK君も加わり、  
参加者の平均年齢がぐっと下がった。(和田康男)

11月17日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：15人

新井浩、荒木恒夫、石田市次、江浪功、大坂幸男、  
尾崎甲四郎、佐久間博文、島田沙織里、島田貴子、  
志村佐治、成瀬慶一、藤掛保司、藤野富代、増尾  
隆、百瀬修

11月18日(日) さいたま市 三室地区

参加：77人 天候：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサ  
ギ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ オ  
オタカ チョウゲンボウ キジ バン オオバン  
ユリカモメ キジバト カワセミ コゲラ ヒバ  
リ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ  
モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュ  
ウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ  
スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガ  
ラス (35種) 冬鳥の季節がやってきた。鳥も参加  
者も多く、空は青空。大空に2羽のオオタカの飛  
翔。そしてチョウゲンボウ。探鳥会の後の挨拶で  
来月の200回探鳥会は時節がら懇親会はやめて「ク  
リーンアップ探鳥会」にすると発言すると、大きな  
拍手。鳥仲間に乾杯。(楠見邦博)

11月18日(日) 富士見市 柳瀬川

参加：63人 天気：曇後晴

カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ  
コガモ ヒドリガモ オナガガモ チョウゲンボ  
ウ キジ イカルチドリ タゲリ イソシギ タ  
シギ ユリカモメ セグロカモメ キジバト ヒ

バリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ  
 タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ  
 ツグミ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ  
 シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシ  
 ブトガラス (35種) 徐々に秋晴れが広がる中に冬  
 鳥のカモ、ツグミ、ジョウビタキたちが到着。中  
 洲の日溜まりにタシギ、イカルチドリが群れをな  
 していた。キジのみ3羽が見られ、また、タシギ  
 が10数羽旋回。目前で1羽が前、横を向いてくれ  
 て大サービス。全員が満足した。(高草木泰行)

11月23日(金、休) 春日部市 内牧公園

参加: 45人 天気: 晴

コサギ オオタカ チョウゲンボウ キジバト  
 コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ  
 タヒバリ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス  
 シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ  
 シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシ  
 ボソガラス ハシブトガラス (24種) 当探鳥会も  
 通算で21回目となり、参加者も年々増加傾向にあ  
 る。公園の鳥観察環境は悪化しつつあるが、継続  
 させていきたい。アスレチック公園の池周辺は、  
 例年よりツグミが多数見られた。オオタカ、チョ  
 ウゲンボウも出現し、満足できた。(吉安一彦)

11月25日(日) 本庄市 坂東大橋

参加: 30人 天気: 晴

カイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ダイ  
 サギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オ  
 カヨシガモ トビ ノスリ チョウゲンボウ シ  
 ロチドリ ハマシギ セグロカモメ キジバト  
 ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキ  
 レイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ  
 ツグミ セッカ ホオジロ アオジ オオジュリ  
 ン カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガ  
 ラス ハシブトガラス (34種) 小春日和の探鳥会。  
 カモの数は例年より少ないのが気になるが、ヨシ  
 ガモやオカヨシガモの姿も。その中にカンムリカ  
 イツブリがひょっこり混じっていた。(北川慎一)

11月25日(日) 野田市 清水公園

参加: 30人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサ  
 ギ マガモ カルガモ コガモ トモエガモ オ  
 オタカ キジバト カワセミ コゲラ ハクセキ

レイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ  
 ウグイス キビタキ ヤマガラ シジュウカラ  
 メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ スズメ  
 ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガ  
 ラス (31種) 紅葉シーズンで連休。好気候に恵ま  
 れたためか人出が多くて出現鳥が少なく、心配さ  
 れた出足だった。しかし、途中カワセミや全員で  
 はないがオオタカが、オートキャンプ場ではキビ  
 タキ♀が見られた。また、総合公園のプールでは  
 トモエガモのみまで全員がじっくり見られ、満足し  
 ている様子だった。(中村榮男)

12月1日(土) 蓮田市 黒浜沼

参加: 45人 天気: 晴

カイツブリ カワウ アオサギ カルガモ コガ  
 モ オオタカ ハイタカ チョウゲンボウ コジ  
 ュケイ バン キジバト カワセミ アリスイ  
 アカゲラ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグ  
 ロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウ  
 ビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジ  
 ロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリ  
 ン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケ  
 ス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス  
 (38種) 上沼で水鳥を見た後、カラスにモビング  
 されているハイタカが出現してたつぷりとその飛  
 翔を楽しんだ。直後に一回り大きなオオタカが上  
 空を飛んだ。雑木林と田圃を回った後、芦原に戻  
 ったらアリスイが現れて大騒ぎとなった。今回は  
 ベテランたちも喜んでくれたと思う。(玉井正晴)

【先月号の戸隠飯綱高原の報告文が、手違い  
 で1年前のものになっていました。お詫びし  
 ます。正しい報告文は次のとおりです。】  
 初日、バスを降りると、早速マヒワが出迎えて  
 くれた。昼食を取ると、一路台座法師池へ。  
 途中、カシラダカ、居残りのキビタキを見つ  
 ける。鏡池ではオシドリの群れ。どうやら去  
 年の秋から居着いたようだ。綺麗なムギマキ  
 の雄を見つける。去年の借りが返せて嬉しい。  
 翌日も鳥には恵まれた。アカゲラ、アオゲラ、  
 マヒワ、アトリがじっくり見られ、樅の木園  
 地にはムギマキもいた。見かけるツグミ類は  
 ほとんどマミチャジナイだった。キャンプ場  
 でもアオゲラの大サービス。最後に稜線近く  
 をイヌワシが飛んでフィナーレ!

## 連絡帳

### ●「干潟を守る日2002」キャンペーン

5年前の4月14日、諫早湾の潮受け堤防が締め切られて、シギ・チドリ類の渡来数日本一を誇った諫早干潟が消滅しました。

その日を忘れまいと始められた「干潟を守る日」キャンペーンは、今年も実施されます。

ニュースや『野鳥』誌などですでにご存知と思いますが、農水省の「有明海ノリ不作等対策関係調査検討委員会」は、昨年12月19日、「諫早湾干拓事業は、重要な環境要因である流動及び負荷を変化させ、諫早湾のみならず有明海全体の環境に影響を与えていると想定される。従って、諫早湾潮受け堤防排水門の開門調査について第一段階として2ヶ月程度の開門調査を行い、次の段階として半年程度、さらにそれらの結果の検討を踏まえて数年の開門調査へ進むことが望まれる」との見解を発表しました。この見解は、次のホームページでも見ることができます。

<http://www.jfa.maff.go.jp/ariakenori/kenkai/1312.25htm>

### ●会員の活動

昨年12月13日(木)、宮代町立須賀小学校の「なかよしグループの時間」でバードウォッチング体験教室が開かれ、1年生から6年生まで28人のグループに対して、中島康夫・藤掛保司・岡安征也・和田康男・宮下光代の幹事・リーダー5人が指導しました。

12月15日(土)、坂戸市高麗川鶴舞・浅羽地区では、「ふるさとの川高麗川を考える会」の第13回野鳥観察会が開かれ、15人が参加、31種を観察しました。13回の累積観察種数は65種にのぼるとのこと。指導に当たったのは、坂口稔・増尾隆・増尾節子、3人のリーダー。

会員でした。

### ●2月の事務局 土曜と日曜の予定

2日(土) 3月号編集作業。普及部会議。

9日(土) 3月号校正。

16日(土) 3月号袋づめの会。

17日(日) 役員会。

### ●会員数は

1月7日現在2,715人です。

## 活動報告

12月9日(日) 評議員会制度検討委員会に出席(海老原美夫)。

12月15日(土) 1月号校正(海老原美夫、大坂幸男、藤掛保司)。

12月16日(日) 役員会議(司会: 田中幸男、各部の報告・探鳥会予定の一部変更・その他)。

12月25日(火) 支部報のみの会員宛1月号発送作業(倉林宗太郎)。

## 編集後記

今冬のはじめは、冬鳥がかなり期待できそうな雰囲気があったのに、いざ寒さ本番になってみると、いまいちの感じ。もちろんそれなりに楽しんでいますが(海)

スワロフスキーの双眼鏡を買っちゃいました。もちろん、鳥を見るためであって、看板を正しく読むためではありません(1月号9ページ参照)。(みどり)

近年、すばらしい図鑑がたくさん出版されている。しかし、私が欲しいのは『野鳥識別ハンドブック』のような読む図鑑だ。(山部)

去年、Eさんからタマムシをいただきました。背中だけじゃなく、腹まで光ってるんですね。きれいでした。(藤原)

ローラースケートにはまっています。(Moto)

しらこぼと 2002年2月号(第214号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 中島康夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130

〒336-0012 さいたま市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号

TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 <http://www.bekkoame.ne.jp/ro/wbsj-saitm/>

編集部への原稿 [yamabezuku@hotmail.com](mailto:yamabezuku@hotmail.com) 野鳥情報 [toridayori@hotmail.com](mailto:toridayori@hotmail.com)

住所変更退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階

(財)日本野鳥の会 会員センター業務室 TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

本誌掲載記事はホームページに転載されます。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。再生紙を使用しています。印刷 関東図書株式会社